

かんしょを栽培している皆様

次作に向けた健全な種イモ確保について

特に「サツマイモ基腐病」「茎根腐細菌病」に注意が必要です。
健全な種イモの確保に向け、以下の対策を実施しましょう。

種イモの選別

- ①種イモは**在圃期間（130日頃）**を守り収穫
在圃期間が長くなると病気に感染するリスクが高くなります。
- ②種イモは基腐病、茎根腐細菌病の**未発生圃場**から確保
つる切り後、掘り上げる前に株元を確認し、
病害が発生している場合は原則種イモは収穫しない。
- ③未発生圃場がなく、発生圃場から種イモを収穫する場合
必ず**株元を確認**し黒変化してるものは、**株ごと取り除く**
- ④収穫時腐敗芋を見つけたら**株ごと除去**
腐敗イモだけでなく、見た目上健全なイモも含めて株ごと取り除く。



基腐病：黒変部に微小な黒粒がみられる。



茎根腐細菌病：繊維が残ってボロボロに。割れ症状もみられる。

種イモの貯蔵前処理

収穫 → 水洗 → なり首・尾部除去、選別 → 種イモ消毒 → 貯蔵

- ・**褐変、しなび、軟化**したものは種イモとして使用しない
- ・種イモの**洗浄、頭部・尾部の切断部分**の確認

断面の直径が1～1.5cmになるよう切断し、
内部に腐敗がある物は取り除く。

- ・種イモの**薬剤消毒**

【**基腐病**が発生している場合】

→薬剤消毒を実施する。

※消毒後はしっかり風乾させる。

○種イモ消毒に登録のある殺菌剤



しなび
軟化
褐変



内部が腐敗

断面の直径が2cm以上だと萌芽数が減少するため注意

薬剤名	使用量・希釈倍率	使用方法
トップジンM水和剤	200～500倍	30分間種いも浸漬

※農薬使用の際はラベルをしっかりと確認しましょう。

【**茎根腐細菌病**が発生している場合】

→水による感染拡大の懸念があるため、浸漬処理による薬剤消毒は推奨しません。

発生病害に合わせた種イモの薬剤消毒について、
ご不明な点がある場合は普及センターにご相談ください。

かんしょ病害発生ほ場の片付けについて

～土壌消毒の前までに～

**残さが残っていると土壌消毒の効果が発揮されません。
また、次作の残さ由来による発病リスクが高まります。**

片付けの方法

- ・持ち出しが可能な残さについては、できる限りほ場外に持ち出す。
- ・持ち出しが難しい残さは圃場にすき込み、残さ分解を促す。

残さ分解を促すために

- ・残さ分解は土中や完熟堆肥等に含まれる微生物が行う。
- ・微生物の活動には温度と土壌水分と酸素が必要。
- ・残さは新鮮なうちに砕いて、細かいほど微生物による分解が進む。

残さ分解に適した土壌水分状態



残さが大きなままでは分解しにくい。



残さ分解のポイント

- ・地温が高く土壌水分が確保できる時期の方が分解が速いこと、収穫直後は残さが新鮮で分解しやすいことから、収穫後、速やかに行う。
- ・すき込む際には完熟堆肥を入れて、微生物を投入し、残さ分解を促す。
また、堆肥の質に不安があるときは分解資材を追加する。
- ・残さをできるだけ細かく粉碎した方が分解が速いため、トラクターの速度は最低、PTO回転は最高で収穫後速やかに、複数回、耕うんする。
- ・微生物の活動には酸素と水が必要なので、冬季にも雨の後にタイミングを見て2回以上、耕うんして分解を促す。

排水の悪い圃場では

- ・排水の悪い圃場は残さ分解が進みにくいため、サブソイラーによる耕盤破碎や緑肥栽培による排水性の改善も行う。

問合せ先：児湯農林振興局農業経営課(児湯農業改良普及センター)

TEL:0983-43-2311 FAX:0983-43-2313 担当:福元、照屋